

## 〈学びの教室コラム〉「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

### 教職との出会い、そして現場からの学び

徳山英仁

#### はじめに

この度、鳥取大学の学生向けに「教職の魅力」について講義をする機会をいただいた。自身の体験や経験をまとめ伝えることで、実践してきたことの振り返りや何を大切にして取り組んでいるのか改めて明確にすることができた。

現在、教育は知識をインプットすることが大切である授業から知識をアウトプットして仲間と協働しながら知識を活用していく授業への転換や ICT 機器を活用した授業推進など大きな転換期を迎えている。私は農業科の教員であるが、農業という産業も大きく変化している。しかし、変化していく時代の中でも変化に対応していく部分と不変的な部分があると考え、日々生徒と向き合っている。

このコラムでは、私が生徒と向き合う上で大切にしていることや体験経験から学び重要と考えていることをお伝えする。

#### 1. 教員を目指すために

##### 【教員を目指すきっかけ】

私が教員を目指したきっかけの一つは、生徒たちの成長に関われることである。私は部活動を通して小学生や中学生に指導する機会があり、その子たちの成長過程を見守る体験があった。練習に打ち込み努力した成果が試合で発揮されたり、夢や目標に向かって精一杯努力して成長したりする姿を間近で見られたときは、とても嬉しく感動したことを覚えている。可能性を持っている子どもたちに関われたことが今の私の教員としてのベースとなっている。

##### 【教員を目指すために大切にしたこと】

教員を目指すために大切にしたことは、人との出会いである。多くの人と出会うことは、自分の世界を広げることができ、様々な考え方や視点を学ぶことができる。私自身も出会いがきっかけで教員という仕事に就きたいと考えるようになった。

また、まずやってみることも大切である。体験が経験となり教科書や理論だけでは語ることのできない貴重な財産を得られることになる。ぜひ行動、実践する意識を持って大学生活を過ごしてもらいたい。

#### 2. 農業高校での学び

農業高校では、農業の理論を座学で学び、実習で理論を実践し、理論と実習で得た知識経験を基に自らが発見した課題を解決していく演習を中心に学びを深めている。生徒たちはトライアンドエラーを繰り返しながら、課題解決能力を身に付け、社会で必要なスキルの獲得をしていく。その結果、卒業時には地域産業を支える立派な人材として社会へと巣立っていく。

農業高校での学びは、幅広い分野で通用する。毎年進学就職先は農業分野だけではない。進学では、国公立大学農学部をはじめ、医療福祉関係大学・専門学校へ歩みを進める生徒もいる。

また、就職では農林水産業をはじめ、食品製造業、接客業、介護福祉業界などへ歩みを進めている。農業高校へ進学すると農業関係への出口しかないのではなく、農業をベースに学ぶことで様々な進路実現ができることを知っていただきたい。

### 3. 大切にしていること

#### 【授業づくり】

私が授業で最も大切にしていることは、失敗できる環境を整えることである。生徒と関わる中で失敗は悪いことであると考えている子が多いように感じる。失敗は悪いことではないとあらかじめ伝え、その失敗から何を学びどのように次へ活かしていくかが重要と意識して授業実践を行っている。たとえその場面の最適解でなくても、考えた理由を聞き、その考えから話題を広げることができれば、クラス全員が新たな学びに気が付けたりできる。失敗を失敗で終わらせないように日々実践している。

#### 【生徒との関わり】

生徒との関わりの中で大切にしていることの一つは、よい部分に目を向けることである。生徒と関わっていると不思議と改善してほしい部分に目が行き、そこばかり指摘しがちである。繰り返し指摘ばかりしていると生徒自身を潰してしまうことになり、その子の強みや長所を伸ばしてあげられない。生徒のよい部分を見つける視点を持ち、こまめに記録しておき、生徒の強みや長所を明確にすることで、生徒の見方が変わり、良い部分を伸ばしていくことが可能ではないかと考え実践している。

### 4. 資質・能力

前向きな考え方は、教員に必要な資質能力の一つと考えている。時には失敗をしたり、至らないことから指摘をされたりする。そのときに、言い訳や後悔をするのではなく、しっかり反省をして、今回の失敗が自分を成長させる機会と捉え、前向きに次に向けて取り組んでいくことにより教員として人として成長できるのではないかと考え実践している。

### 5. 最後に

「学ぶことをやめたとき、教えることもやめなければならない」。これは私が大切にしている言葉である。社会は日々変化している。変化する社会で活躍できる生徒を育成するためには、教員も学びアップデートする必要がある。常にアンテナを高く、そして向上心を持ち自ら学ぶことこそが教員としての魅力となるのではないかと考えている。

そして、教員は支配力があるのではなく、「影響力」があると考えている。教員という仕事には生徒に対して、あこがれ、夢、希望を持たせ、生き方を伝えることができるという魅力がある。私もこれまで出会ってきた先生方に大きな影響を受けている。私が出会ってきた先生方のように生徒に大きな影響を与えられる人間になれるよう日々精進している。

徳山英仁（鳥取県立倉吉農業高等学校教諭）